

授業科目名・形態	緩和ケア論	講義	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	水木 暢子		実務経験の有無	有	開講期	4年前期

【授業の主題】

緩和ケアやターミナルケアの理念と発展過程を理解するとともに、緩和ケア実践で看護師が直面する倫理的課題について考究する。全人的な患者理解と主要症状に対する専門的な技術を用いた苦痛軽減の方法を学び、人間の尊厳を尊重した生活の維持について理解を深める。また、緩和ケアを受ける患者の家族が体験する喪失と悲嘆のプロセスを理解し、適切な支援を行うための看護の役割について学ぶ。

【到達目標】

- 1) 緩和ケアの定義と歴史を理解する。
- 2) 緩和ケアを受ける対象と家族の特徴や支援方法を理解する。
- 3) 緩和ケアにおける薬物療法をはじめとした治療とケアの方法や問題点を理解する。

【授業計画・内容】

- 第1回 緩和ケア・ターミナルケアの定義・歴史
- 第2回 ターミナル期にある人の特徴と理解
- 第3回 ターミナル期にある人と家族への援助
- 第4回 緩和ケアの実践方法
- 第5回 緩和ケアにおける薬剤の活用と副作用への対処
- 第6回 ターミナル期にある患者と家族の事例から学ぶ（ゲストスピーカー：緩和ケア認定看護師）
- 第7回 在宅ターミナルケア
- 第8回 まとめ

【授業実施方法】

講義形式で行う。グループ討議や演習を1～2回程度行う予定。

【授業準備】

成人看護学概論、成人看護方法論、がん看護学で学習した内容で、本科目と関連する内容については十分復習し、事前学習をして備えること。又適宜、必要な事前学習を提示するので、しっかり予習して授業に臨むこと。

【主な関連する科目】

成人看護学概論、成人看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、がん看護学、在宅ケア論Ⅱ、臨地実習

【教科書等】

鈴木志津枝、内布敦子編：成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論 第2版 スーヴェルヒロカワ

【参考文献】

恒藤暁、内布敦子編：系統看護学講座別巻10 緩和ケア 医学書院
 梅田恵、的場典子編：緩和ケア 南江堂
 その他の参考図書および資料は随時提示する。

【成績評価方法】

レポート評価（70%）、授業への参加態度・提出物（30%）により評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

総合病院で看護師として業務に就き、そこで経験した看護実践をもとに看護学の知識、技能を学生に教授する。

【学生へのメッセージ】

いのちの始まりから終わりまで、いのちについて考えます。緩和ケアは専門病棟のみならず、一般病棟や在宅ケアなど様々な場面で必要な知識となります。3年次までの講義や実習で体験した終末期看護の内容を統合させる学習になります。授業終了時には、自分の死生観・緩和ケアに対する理解が深まっているように、主体的な学習を進めていきましょう。